

# 競 技 注 意 事 項

1. 本大会は2019年度（公益財団法人）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項により行う。
2. 練習は競技役員への指示に従い、危険防止に努めること。
3. 競技者の招集について
  - (1) 招集所は競技場第1ゲート付近（100mスタート付近）に設ける。
  - (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、すべてその競技の開始時刻を基準とし下記の通りとする。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック種目	20分前	15分前
フィールド種目	35分前	30分前
棒 高 跳	65分前	60分前

- (3) 招集方法
  - ア 競技者は出場種目の招集開始時刻に招集所にてチェックを行う。
  - イ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
  - ウ 代理人による招集最終確認は原則として認めない。他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨を競技者係に申し出て出場を確認する。
4. 競技場への入退場について
  - (1) 競技場への入場は競技役員への指示に従うこと。競技者以外はトラック、フィールド内に立ち入ることはできない。また、本部前（メインスタンド下の通路）の通行は禁止とする。
  - (2) トラック競技出場者は、フィニッシュ後、第2ゲートを通り退場する。
  - (3) フィールド競技出場者の退場については、当該競技役員・場内司令の指示に従う。
5. ナンバーカードについて
  - (1) ナンバーカードは、必ずユニホームの胸・背に確実に付けること。ただし、跳躍競技の競技者は胸・背のいずれかでもよい。
  - (2) トラック競技出場者は、腰ナンバーカードを招集所で受け取り、パンツ右側後方につけること。ただし、男女4×400mRは、第2・第3走者は、パンツ左側後方にもつけること。
  - (3) 3000m以上の競技（競歩も含む）は、レーンナンバーカードを使用する。
6. 走路順・試技順について
  - (1) 予選における走路順・試技順は、プログラム記載通りとする。
  - (2) 決勝進出者を決める場合、同タイム者については、判定写真を拡大し、細部（電気計時1/1000）まで読みとり判定する。判定が不可能な場合は救済レーン（第9レーン）を使用するが、対象選手が救済可能なレーン数を上回る場合は、本人か代理人によって抽選する。ただし、800mでは安全上問題のない範囲でスタートからブレイクラインまでのセパレートコースについては、一つのレーンに複数の選手を入れて競技を行う。
7. 競技について
  - (1) 不正スタートをした競技者は1回で失格とする。
  - (2) 「On your marks」あるいは「Set」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害したとき、1回目はグリーンカードで対応し、スターターより当該選手に注意内容を告知する。同一ラウンドにおいて同様の行為を2回行った場合は遅延行為とみなし、審判長よりイエローカードを示し警告を与える。同一種目において2枚のイエローカードを受けた競技者は当該競技を失格とするが、それ以後の種目の出場を妨げない。
  - (3) 事故防止のため、短距離走ではフィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
  - (4) リレー競走に出場するチームは、その種目の第1組目の招集完了時刻1時間前までにオーダー用紙を競技者係に提出すること。ただし、女子4×100mRに限り8:00までとする。提出時間に遅れたチームは当該種目を棄権したものとみなし処理する。
    - \* 申告したオーダー用紙の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。
    - \* 招集完了時刻前であっても、一度申告した編成の変更（オーダー用紙の差し替え）は認められない。
    - \* 医務員の判断による変更は出場者のみ認められ、編成（走る順番）の変更は認められない。
  - (5) 男子5000m・男子3000m S C・女子400m H・男女4×400m Rは決勝タイムレースとする。
  - (6) 5000m Wは、男女同時スタートとする。
  - (7) 助力については、競技場内での助力は禁止とするが、スタンドからの助言については競技運営や他の競技者の競技妨げにならない範囲で認める。ビデオ・携帯電話もしくは類似の機器等については、競技者に見せることは可能だが、競技者が操作をしたり、試技場内に持ち込んだりしてはならない。
8. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りである。

種 目	練 習	1	2	3	4	5	備 考
男子走高跳	決勝 1 m70	1 m75	1 m80	1 m85	1 m90	1 m93	以降3cm刻みとする
女子走高跳	決勝 1 m30	1 m35	1 m40	1 m45	1 m50	1 m53	以降3cm刻みとする
男子棒高跳	決勝 2 m90	3 m00	3 m10	3 m20	3 m30	3 m40	以降10cm刻みとする
女子棒高跳	決勝 2 m00	2 m10	2 m20	2 m30	2 m40	2 m50	以降10cm刻みとする

## 9. 予選通過記録

男子やり投	備 考
41m00	天候その他の条件で変更することもある。

10. 競技に使用する用器具は、全て主催者が用意したものを使わなければならない。やりは検定を受けて通ったものを使用することができる。検定は、8:00~8:30までの間に、第2ゲート器具庫前にて実施する。ただし、棒高跳用ポールに限り個人所有のものを使用できる。
11. スパイクの長さは、9mmをこえてはならない。走高跳、やり投は12mmをこえてはならない。
12. 各種目3位までの入賞者は、競技終了後ただちに表彰する（代理でも良い）。4~8位の入賞者は、競技場エントランスホールで賞状を受け取る。
13. 各学校のテント設営は、テント付属の取扱説明書（マニュアル等）に従って、しっかり固定すること。
14. テント設置場所は、事前に決定しているスタンド割り振りの場所に設置すること。